

はじめに

現在、21世紀に向けて、教育改革が進行しつつあります。数年前から、中央教育審議会や教育課程審議会の答申が相次いで出され、昨年12月には新しい学習指導要領が告示され、今後の教育の在り方について基本的な方向が示されました。それは、端的に言いますと、学校、地域、家庭が連携をとりつつ、次の世代をになう子どもたちに、ゆとりのある中で、心豊かに、たくましく生きる力を育む、ということであろうと思います。

そのようなことを念頭に置きつつ、本校では、昨年に引き続き『教育課程の創造—自己の学びを広げ深める子を求めて—』を研究主題として掲げ、教科・道徳の教育内容の厳選、総合学習の実践、特別活動への取り組みに重点を置き、時間割編成にも工夫を加えながら、新しい時代にふさわしい本校独自の教育課程を編成すべく研究を進めてきました。

教科・道徳については、新学習指導要領に示された目標や内容、授業時数等を参考にして、本校が昨年提案した教科の本質や学習内容の基礎・基本を改めて確認した上で、年間授業計画を見直しました。

総合学習については、今日的課題性のあるテーマで内容が構成される「環境」「人間」「文化」の三つの領域の実践を充実させるとともに、情報教育と英語活動を総合学習の中に位置づけました。情報教育は、本校の特色である光ファイバー網によるネットワークを活用して年間12時間の授業を当て、年間指導計画を作成してきました。英語活動は学級担任が授業の計画を立て、英語を母語とする英語活動指導助手（English Activity Assistant）とティーム・ティーチングを組んで行っています。本校の先生方も、英語活動を始めてから3年経った現在では、指導助手との打ち合わせも英語でコミュニケーションができるようになり、また授業にも慣れ、年間11時間の英語活動に臨んでいます。本年度の教育研究発表会では、初めて英語活動の公開授業と研究協議会を行います。

特別活動については、活動の内容を子どもに任せることを第一に考えました。また、異学年たてわり活動のグループをできるだけ小さくして子供同士の人間関係を一層密にし、そしてリーダーとして活躍する機会をできるだけ多くするようにと意図しました。

今回、本校が明治図書から出版することになった『総合学習レシピ25』は、過去4年間にわたる本校の総合学習の歩みと昨年から教科の指導内容の見直し、特別活動のあり方等々を紹介したものです。その書中に、本年度行った研究内容を載せているために、本年度の『研究紀要』は、従来より縮小化し、『発表会要項』と合冊にしました。また、本年度の実践をふまえて、来年度には新学習指導要領全面実施に向けた新たな『年間指導計画』を作成する予定です。

私たちが教育課程を創造する上で検討を加え実践してきた足跡の一端をこの紀要にまとめました。ご高覧いただき、忌憚のないご意見、ご批判を賜りたいと存じます。

これまで本校の教育研究のために貴重なご指導、ご助言を賜りました金沢大学および関係機関の諸先生方に厚く御礼を申し上げますとともに、研究同人の方々のご尽力に対し、心から感謝の意を表します。

平成11年11月18日

金沢大学教育学部附属小学校
校長 大塚 巖